

企画総務グループ打合せ（平成 20 年度第 6 回）議事録

- ・日 時：平成 21 年 3 月 5 日（木） 14：00～16：30
- ・場 所：JGS 会館 3 階小会議室
- ・出席者：東畑，岸田，石井，北本（記録），喜多，王，玉手，青木（事務局）
- ・欠席者：未政，大和

1．本部技術普及委員会との共催計画

- ・ 本部・事業部会の小林部員から、「本部では、地盤工学会 60 周年記念行事として、最新地震動予測技術の動向に関する特別講演会を企画している。一般市民向けに学会の存在意義をアピールする趣旨で（収益を求めず参加費を抑える意味から）Cタイプ（支部企画・支部主催）*による開催（関東支部主催・本部（技術普及委員会後援）にしたい」との説明を受け、可否について審議した。
 - * Aタイプ：本部企画・本部主催，Bタイプ：本部企画，支部主催（インターネット講習）
- ・ スタッフ，開催場所，広報手段等に問題があるものの、趣旨に鑑み前向きに取り組むこととし、本部，支部から等分の労力で検討する。支部の来期予算としては、この種企画に最大 50 万円を計上している。
- ・ シンポジウム形式による開催が適当であり、異なる立場の方々（たとえば、BCP（保険関係），宅地（不動産），交通機関，インフラなど）からのプレゼン後にパネルディスカッションを行う（座長候補として安田副会長）。開催時期としては、“防災の日（9/1）”後の週末（9/5（土））を想定する。

2．来期の体制

- ・ 石井副幹事の後任は応用地質㈱から、未政幹事の後任は埼玉大学・桑野先生，新規として建築分野から就任予定（東京都からは断りの連絡あり）である。
- ・ メールや会告による企画総務Gの幹事公募を計画する。

3．開催結果，進捗状況報告

- (1) 特別講演会「建設コンサルタント賠償責任保険の支払いからみる事故原因」
 - ・ 2/12 開催済の内容は好評であり（参加者数 49 名）、終了後も個別に相談が行われていた。
 - ・ この分野を扱っている会社は、今回講師を担当した損害保険ジャパンのほかには三井住友海上があるが、先方もコンササイドの声を聞きたいようであるので、第二段的な企画も有望である。
- (2) 特別講演会「エジプトの地盤と特殊土が構造物の安定性に与える影響」（共催）
 - ・ 3/11 開催予定に対して、現在の参加申込者数は 12～3 名である。
- (3) 中国四川省地震対応
 - ・ 4/19 派遣予定の交流団に対して、現在の参加申込者数は 8 名である。
 - ・ 旅行保険（本部規定により 5,000 万円）の加入費は 7,000 円/人で、参加者負担である。
- (4) 特別講演会“地盤技術者の英語”入門
 - ・ 開催日を想定して、計画を実行へ移す。

- ・ プレゼン実践講習については、アレキサンドリア会議での発表者を対象に考え、9月半(9/18)頃を想定する。参加費については、たとえば1,000円(講師謝礼は学会規定による)を設定し、収益にはこだわらない扱いとする。

(5) 講習会“あなたの住む地盤は大丈夫?”

- ・ 講習会開催の企画に先立ち、一般市民向けのパンフレット(カラー版8~12頁)作成を検討してはどうか。研究委員会Gにおける宅造関連テーマ・安田先生に打診してみる。

(6) 特別会員向け出張講座

- ・ 内容・講師は依頼者の要望を尊重して調整する。
- ・ 講師への同行は、講師に対する配慮というよりはむしろ依頼者(特別会員)への挨拶を主眼としており、日程調整が難しい場合、必ずしも必要としない。

(7) 基礎的講習会の企画

- ・ 若手対策(非会員にも安価で)の一環として、RCCM,技術士(補)などの資格試験に向け、できあいのテキストを使用したイブニング(17時~19時)勉強会の企画を検討してはどうか(講師の一候補として斎藤副支部長)。

4. 関東支部の地盤工学会60周年記念事業

- ・ 絵画コンクールに関して、審査員候補には内々に依頼を進める。
- ・ 小学生などを対象にする企画では、まず教育委員会に挨拶を行うのが話を進める上でスムーズであろう。担当者を決めて動き出す必要がある(関東学院大・若松先生も候補)
- ・ 関東建設弘済会の「平成21年度公益助成事業」へ310万円で応募しているが、不採用(減額)の場合には、この金額を支部で用意する。

5. 運営管理上の報告・協議

(1) 企画総務G来年度予算

- ・ 収入45万円,支出195万円で、活動内容の性質上、支出が大きく上回った計上状況である。
- ・ 60周年記念事業対応として50万円の支出,四川地震技術交流団の現地交通費として10万円の支出を計上している。

(2) 収支状況報告・繰越金の処置

- ・ 今年度の収支としては、500万円程度の黒字見込みである。
- ・ 1年分の事業費を超える繰越金については、明確な目的を有する積立資金として処置する必要がある、来年度については300万円程度を支部創設10周年記念事業基金として積み立てる。
- ・ 本部では会館の大規模修繕にも備える必要があるが、支部として支払っている賃貸料の中にはその修繕費も含まれている。

(3) 第2回評議員会報告

- ・ 議事録の中の発言者名から、評議員の個人名は削除し、執行部の回答者のみ表示する。

(4) 第6回運営委員会対応

- ・ 議題の中に、地盤工学技術貢献賞,評議員の辞退者の扱い(欠員),本部企画“都市の地盤”への支部からの派遣などを盛り込む。

以上